

写真で見る  
関川・保倉川 治水のむかし◆いま

- 参考・ご協力頂いた書籍、資料など（五十音順）
- |                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| アルバム直江津                     | (北越出版)    |
| 思い出ほろろんく上越編                 | (新潟日報事業社) |
| 上越市今昔写真帖                    | (郷土出版社)   |
| 上越のいまむかし                    | (国書刊行会)   |
| 関川のおいたち                     | (高田工事事務所) |
| 戦後50周年記念誌 50年の歩み            | (上越市)     |
| 高田工事事務所30年史                 | (高田工事事務所) |
| ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和 高田 直江津 | (国書刊行会)   |

※出展の記載がない写真は、高田河川国道事務所の所有または撮影です。

企画・編集

国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所  
〒943-0847 新潟県上越市南新町3番56号  
Tel.025-521-4540 (調査第一課)  
<http://www.hrr.mlit.go.jp/takada/>

写真で見る  
関川・保倉川 治水のむかし◆いま



関川右岸1.6K付近より上流を望む（平成19年2月）

関川水系における河川整備の基本となる「関川水系河川整備基本方針」が、平成19年3月30日に策定されました。

河川整備基本方針は、関川水系における治水、利水、環境等に関する河川管理の長期的な方針を総合的に定めるものであり、河川整備の基本となるべき事項等を定めています。

この「写真で見る 関川・保倉川 治水のむかし・いま」は、河川整備基本方針策定を機に、過去の水害や河川改修・風景の移りかわりをまとめたものです。むかしをふりかえり、現在を見つめ、これからの関川・保倉川について考えていただければ幸いです。

関川は、焼山を源流に妙高市と上越市を流れ、日本海に注ぐ全長約64km、流域面積は約1,140km<sup>2</sup>（雨が降って、関川に水が集まる地域の面積）の一級河川です。

関川は、高田平野の稲作、発電や工業用水などへの利用など、歴史の上からも上越地方の発展と暮らしに欠かせない存在です。しかし、一方では、「荒川」とも呼ばれ、洪水が多く発生し、治水のための努力も行われてきました。

明治以降の近代国家による河川改修事業は、明治27年から直江津、高田地区等の洪水被害を防ぐために局所的な工事が行われたのが最初で、計画的な改修が行われるようになったのは、昭和35年の中小河川改修からです。

その後、昭和44年には一級河川の指定を受け、13.8km区間（関川：河口から12.2km、保倉川：関川合流点から1.6km）が直轄管理区間として新潟県から国土交通省（当時は建設省）に管理が移され、昭和44年8月水害を契機にそれまでの計画を見直し、昭和48年より大規模な引堤工事（川幅を広げる工事）を進めました。その工事に際しては約700戸という大規模な家屋移転がとれない、地域の方々のご協力がなくては、実現できなかったものです。

近年では、保倉川下流において水害時に大きな支障となっていた不法係留船が、「マリーナ上越」の開港を経て、平成17年11月に全て解消されました。

現在、関川・保倉川の堤防断面は概ね確保されるまでになっていますが、依然として洪水を安全に流下させるための断面が不足しています。平成7年に発生した「7.11水害」をはじめ、近年多発している集中豪雨などに見舞われた場合には、水害が発生する可能性が高く、今後も河川整備を進めていく必要があります。

## はじめに

台風24号による 昭和40年9月水害	2
台風7号と豪雨による 昭和44年8月水害	3
台風15号による 昭和56年8月水害	4
台風18号による 昭和57年9月水害	5
梅雨前線による 昭和60年7月水害	6
梅雨前線による 平成7年7月 7.11水害	7

## 関川

0.0k～3.0kの変遷	8
0.0k～0.6k（中央・港町）	10
荒川橋付近（0.6k）	12
0.6k～1.4k（中央・春日新田）	14
直江津橋付近（1.0k）	16
1.4k～2.4k（東雲町・春日新田）	18
右岸1.6k（春日新田付近）	20
4.4k～5.0k（木田・北田屋新田、南田屋新田）	22
春日山橋付近（4.6k）	24
8.0k～8.8k（東本町・北城町・稲田）	26
稲田橋付近（8.2k）	28
8.8k～9.8k（東城町・鴨島）	30
中央橋付近（9.2k）	32
矢代川合流点（9.8k）	34
今池橋付近（10.6k）	36

## 保倉川

0.0k～0.6k（川原町・港町）	38
春日新田付近（左岸0.4k）	40
0.6k～1.2k（春日新田・港町）	42
マリーナ上越（0.6k）	44

## 台風24号による 昭和40年9月水害

三重県大王崎付近に上陸した台風24号の影響で、関川流域は連続的な大雨に見舞われました。ピーク時には、時間雨量10~30mm/hrの強い雨が約7時間にわたって降り続き、2日間の総雨量は261mmに及びました。この台風による被害は、死傷者3名、全壊7戸、半壊床上浸水4,584戸、床下浸水1,434戸、浸水面積3,152ha、道路決壊又は冠水20カ所、橋梁流失20カ所、堤防決壊11カ所に及び、直江津市内等は水深1m位の水浸し状態となりました。



直江津南小学校の前付近から直江津駅前通り方向を見た写真  
道路標識が半分ほど水に浸かり、雁木の上に避難している人の姿が見えます。  
写真出典：アルバム直江津（北越出版 刊）



関川 中央橋下流左岸の堤防が決壊  
濁流が流れ出し、高田市街地は大きな被害を受けました。

## 台風7号と豪雨による 昭和44年8月水害

台風7号の去った後、活発化した前線が北陸地方、東北地方南部、関東地方南部に長期間停滞し、南北に移動を繰り返したことにより、局地的かつ強い降雨がもたらされました。8月8日から9日にかけて、関川流域で100mmを越す集中的な豪雨があり、このため9日8時30分には高田地点で堤防満杯の5.33mに達し、一部堤防を越水する大水害となりました。また、10日夜半から前線が北上して大雨となり、11日11時に関川高田地点で警戒水位を上回る2.81mとなりました。この豪雨による被害は、半壊床上浸水264戸、床下浸水978戸、浸水面積1,548ha、橋梁流失10カ所、堤防決壊71カ所に及びました。



上越市藤巻付近上空から  
関川だけでなく支川の正善寺川や大瀬川も氾濫し、市街地にまで被害が広がりました。



上越市藤巻付近 旧国道18号（現在の上越大通り）  
関川と並行していた旧国道18号は水害の際に度々浸水していました。ダンプカーのタイヤが埋まるほどの水深があり、屋根の上に避難する人の姿も見えます。

## 台風15号による 昭和56年8月水害

台風15号の北上にともない、関川流域では時間雨量20~30mm/hrの強い雨が続き、総雨量は3時間で100~130mmに達しました。この降雨により関川高田地点では、警戒水位を2.80m越える出水となりました。また、河口より4km付近では計画高水位を1.0m越える出水となり、全川にわたり堤防天端いっぱいまで水位が上昇し、高田地点のピーク流量は1,670m<sup>3</sup>/sに達しました。この台風による被害は、半壊床上浸水512戸、床下浸水538戸、浸水面積443haの他、関川稲田橋上流の左岸と保倉川下流部右岸で溢水が生じ、関川の無堤（露堤）部では堤内側に浸水し、周辺の人家近くまで広がり支川各所で内水氾濫が起きました。保倉川においては佐内橋が流出しました。



関川 稲田橋上流左岸  
増水した川の水が堤防を乗り越えて流れ出てしまいました（越水）。稲田橋周辺は川幅が狭く、水害を受けやすい地域でした。



保倉川佐内橋  
右岸側（写真向こう側の岸）の部分が流失しました。  
保倉川下流は、降った雨水が川に流れ込むことができなくなる内水氾濫による被害が多く起こっています。

## 台風18号による 昭和57年9月水害

台風18号は、新潟県のすぐ東を北上するコースを通ったため関川流域の山岳地帯に多量の雨をもたらしました。関川流域の11日から13日にかけての総雨量は、上流山岳部で200mmを超え、沿岸部でも100mmを超えました。また、時間雨量が山岳部で20mm/hrを超える強い雨が降った他、各地で10mm/hr以上の強い雨が観測されました。関川高田地点では当時の既往最高水位を更新する6.95mのピーク水位に達し、この台風による被害は、全壊5戸、半壊床上浸水2,738戸、床下浸水4,472戸の他、関川では本川の溢水氾濫や各支川での破堤によって、大水害をもたらす既往最大の洪水となり、直轄および指定区間での溢水箇所は44カ所（本川11カ所、支川33カ所）、破堤箇所は3カ所（いずれも支川）、浸水面積は717haに及びました。この復興事業として、関川で河川激基災害対策特別緊急事業が実施されました。



上越市石橋付近上空から  
御館川が氾濫し、栄町・石橋・新高町各地にも大きな被害が出ました。



関川稲田橋上空から  
上越南消防署や稲田小学校をはじめ、兩岸の広い地域が浸水しました。

## 梅雨前線による

# 昭和60年7月水害

8日から雨を降らせた梅雨前線は、関東北部から北陸方面に停滞し、県内に雨が降り続けました。関川流域は7日20時頃より雨が降り始め、8日21時までの雨量は150～200mmに及び、8日10時30分に関川高田地点で最高水位5.30mを記録しました。なお、保倉川では、佐内地点で8日14時30分に最高水位5.43mを記録し、この豪雨による被害は、床上浸水302戸、床下浸水2,171戸、浸水面積は2,699haに及びました。この復興事業として、保倉川で河川激甚災害対策特別緊急事業が実施されました。



旧頸城村（現在の上越市頸城区）浮島付近上空  
保倉川の支川 湯川が氾濫し、流域の地域が氾濫しました。



保倉川佐内橋付近  
増水した保倉川の水が堤防を越えて民家に流れ込みました。「河川激甚災害対策特別緊急事業」が適用され河川改修が進みました。しかし、保倉川下流域は近年においても浸水被害が頻発しています。

## 梅雨前線による

# 平成7年7月 7.11水害

梅雨前線が停滞し、南から湿った空気が流入したため、前線の活動が活発となり、局地的に激しい雨を降らせました。11日14時頃から降り始めた雨は、関川流域の赤倉雨量観測所で16時～19時の間に、時間雨量17～33mm/hrを観測する強い雨となり、累計雨量は88mmに達しました。その後も、関川流域には強い雨が降り続き、赤倉雨量観測所における12日13時までの総雨量は207mmを記録しました。関川高田水位観測所の水位は、11日21時50分に警戒水位を上回る6.08mを記録。関川上流部妙高市月岡地先では堤防が決壊し、下濁川では家屋の流出等の被害を被りました。保倉川佐内水位観測所では、既往最高水位6.23mを記録し、保倉川、重川では越水が発生したため沿川住民が避難しました。この豪雨による被害は、行方不明者1名、全半壊70戸、半壊床上浸水2,167戸、床下浸水2,620戸、浸水面積は2,217haに及びました。



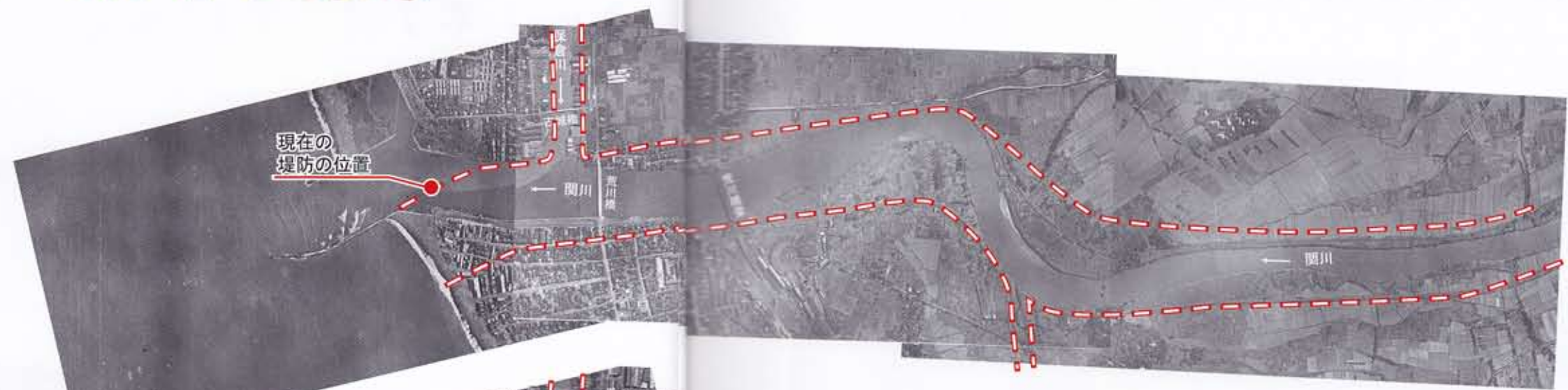
旧新井市月岡上空（現在の妙高市月岡）  
関川の堤防が決壊し、溢れ出た濁流に多くの建物や田畑が呑み込まれました。



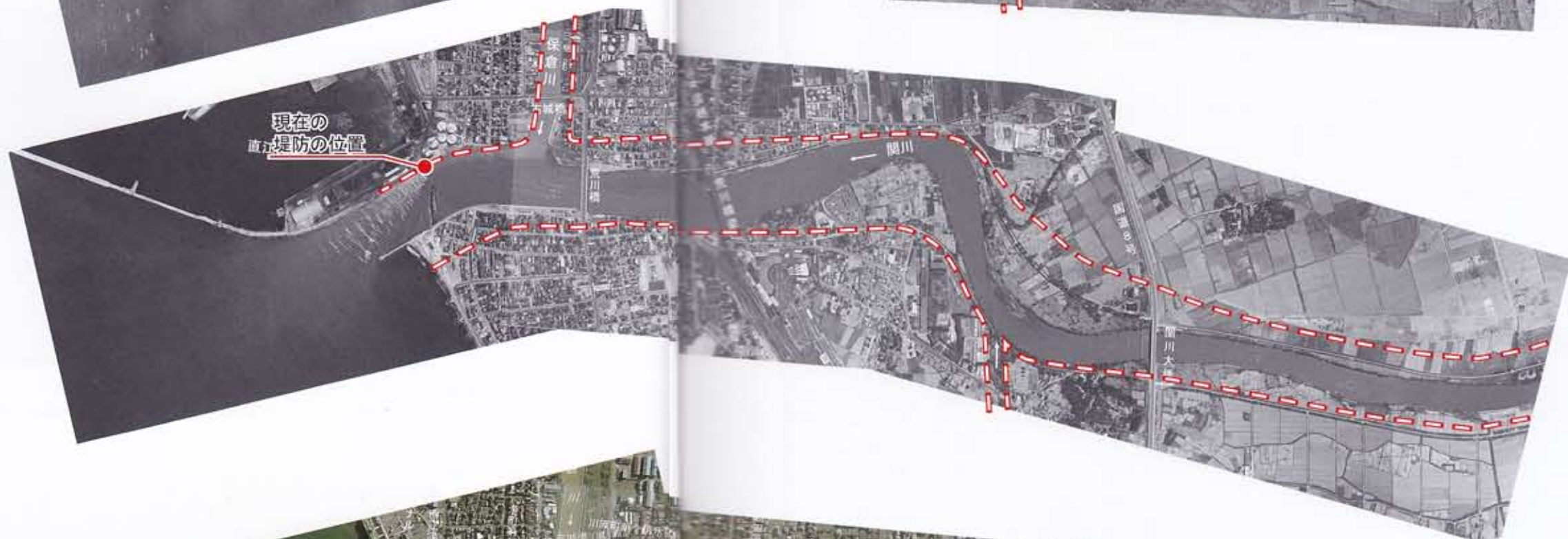
上越市福田上空  
保倉川下の地域では、戸野目川や桑曾根川などの支川をはじめ、側溝や水路からの氾濫により、宅地や農地の広範囲にわたり浸水被害に見舞われました。

# 関川 0.0k~3.0k の変遷

昭和21年(1946)



昭和46年(1971)



平成12年(2000)



0.0k~0.6k (中央・港町)

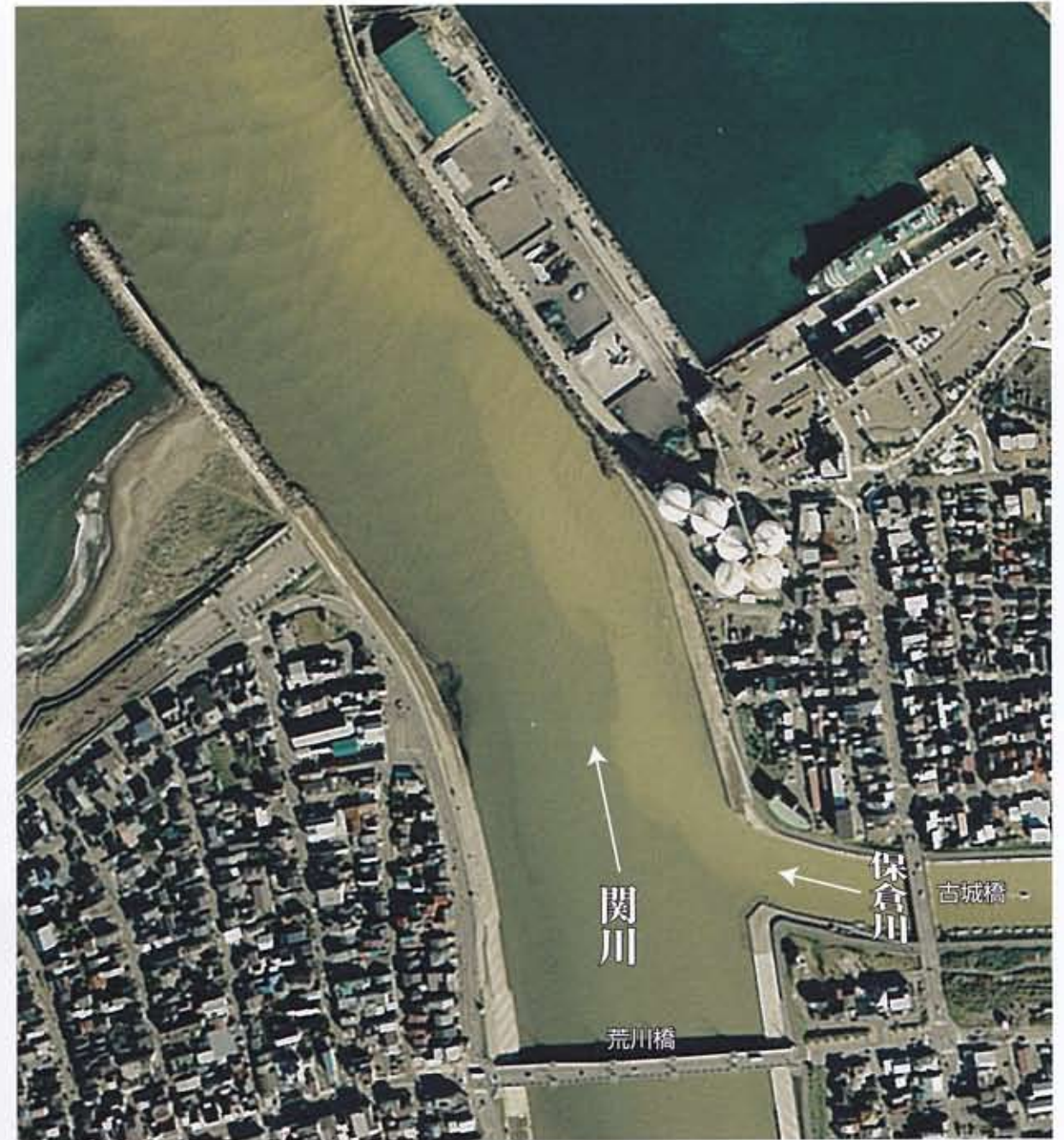
昭和36年 (1961)



関川の河口と直江津港の分離工事が終了した頃の写真です。昭和44年8月水害を契機に、46年(1971)に関川水系工事実施基本計画を改定し、48年(1973)より大規模な引堤工事(川幅を広げる工事)に着手しました。

写真出展：アルバム直江津(北越出版刊)

平成12年 (2000)



現在では、川幅も広がり堤防の断面も完成しています。

# 荒川橋付近 (0.6k)

## 大正時代



荒川橋

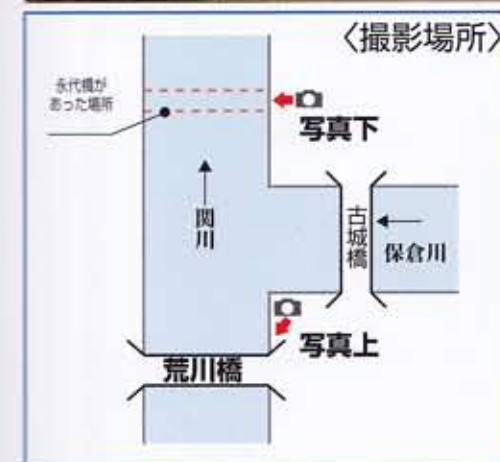


永代橋 (大正初期)

荒川橋は、明治5年(1872)に架けられました。その後、何度か流出し、写真は明治35年(1902)に架けられた木造の荒川橋です。写真下は、荒川橋よりも河口側にあった「永代橋」です。昭和20年(1945)頃に撤去され、現在は架かっていません。

写真出展：上越のいまむかし(国書刊行会刊)

## 平成19年(2007)



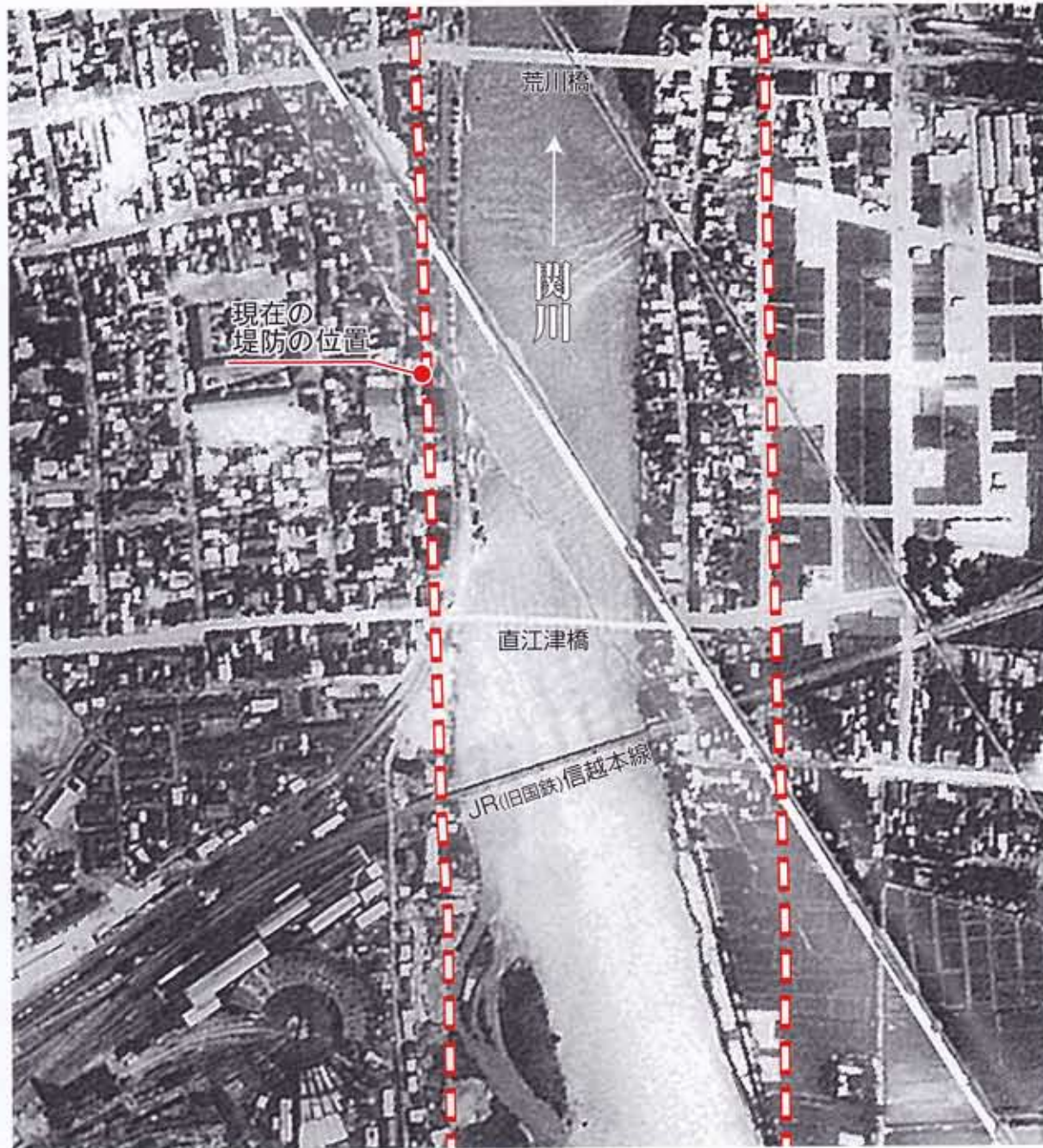
永代橋が架かっていた付近

現在の荒川橋は、河川改修の際に架け替えられ平成6年(1994)に完成しました。



# 0.6k~1.4k (中央・春日新田)

## 昭和36年 (1961)



直江津駅周辺も水害時には浸水し、鉄道が不通になるなどの被害を受けていました。

写真出展：アルバム直江津（北越出版 刊）

## 平成12年 (2000)



大規模な引堤工事（川幅を広げる工事）は、直江津地区で約570戸の家屋移転が必要となった他、直江津橋やJR（旧国鉄）信越本線橋梁についても架け替えが必要となりました。

# 直江津橋付近 (1.0k)

昭和38年(1963)

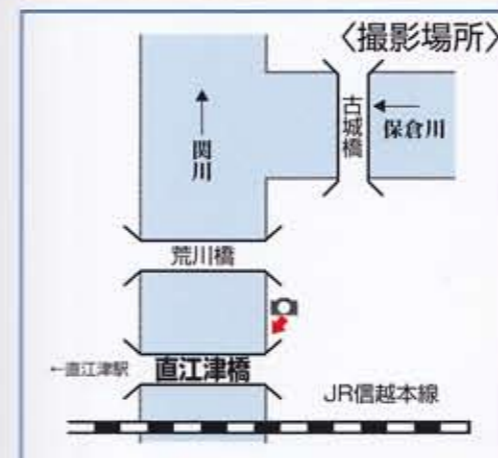


昭和35年頃

直江津橋は、架けられた当時は渡る際にお金を取っていたため「ぜんとり（銭取り）橋」と呼ばれていました。

写真出展：上／アルバム直江津(北越出版 刊) 撮影・川村澄さん  
下／上越今昔写真帖(郷土出版社 刊)

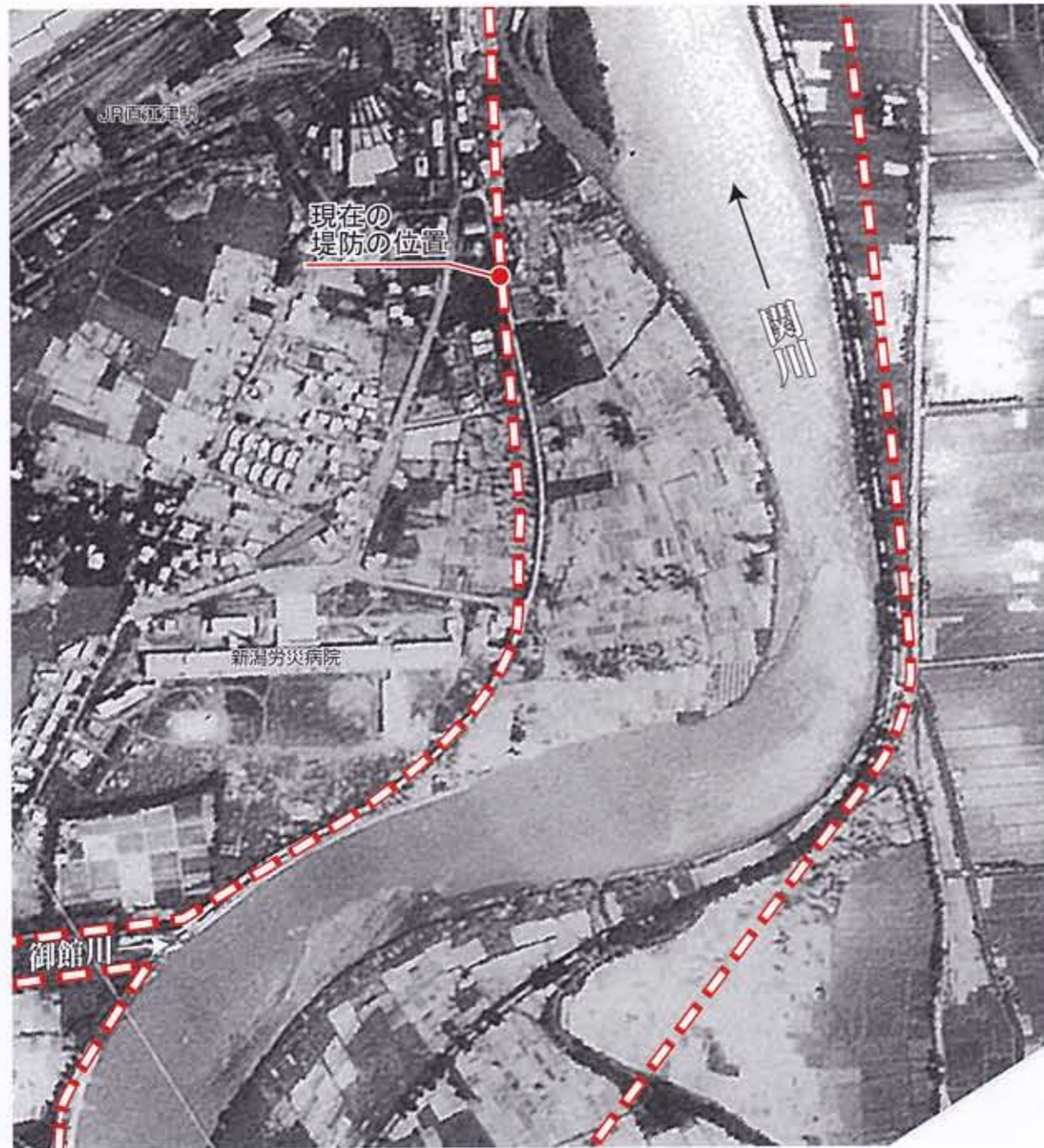
平成19年(2007)



現在の直江津橋は、河川改修の際に架け替えられ昭和63年(1988)に完成しました。

# 1.4k~2.4k (東雲町・春日新田)

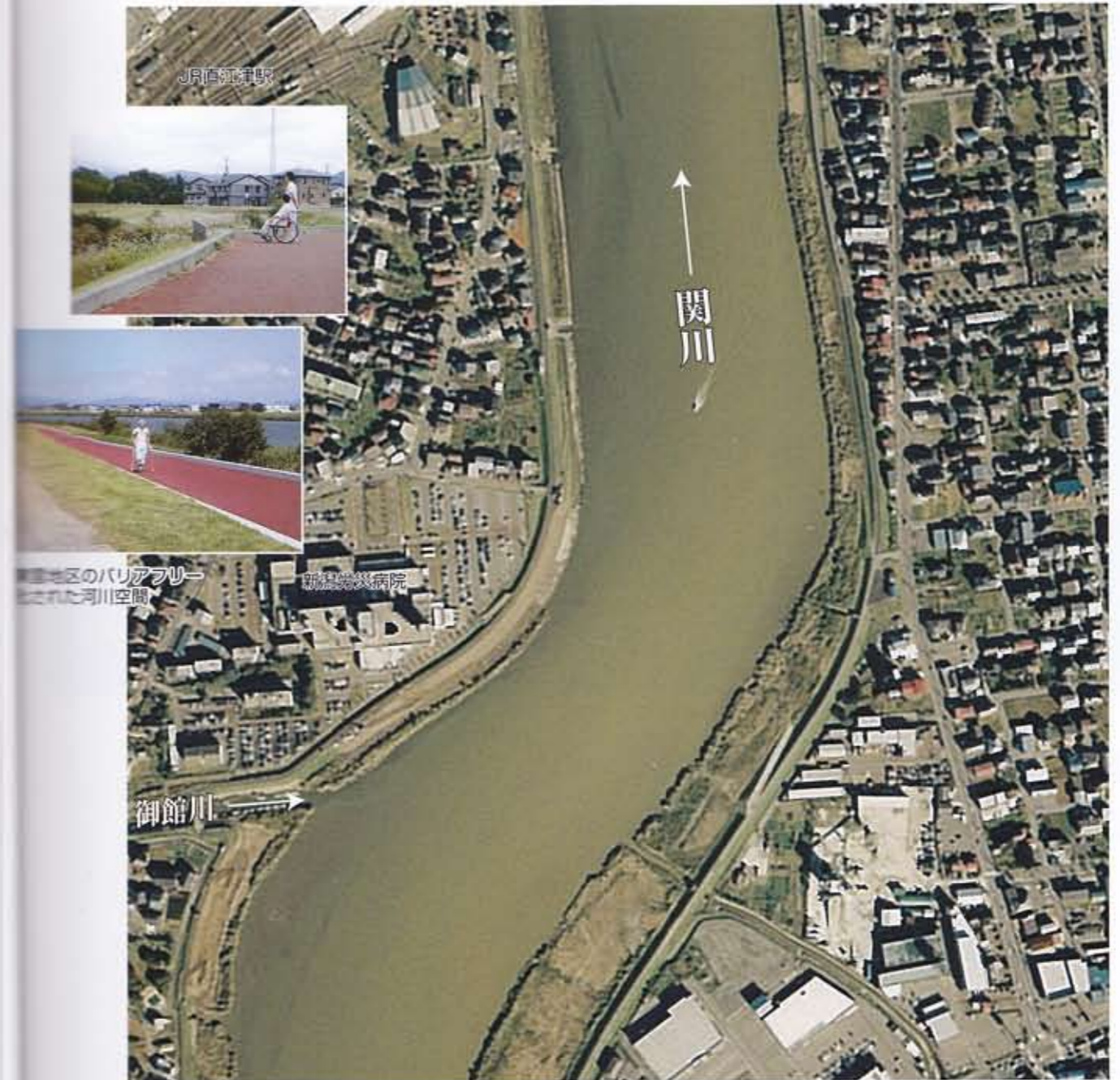
昭和36年 (1961)



この付近では、関川は大きく右に蛇行し、河道が狭くなっていますが、昭和48年(1973)より河道掘削工事(川の中を掘削する工事)と併せて、大規模な引堤工事(川幅を広げる工事)を行いました。

写真出展：アルバム直江津(北越出版刊)

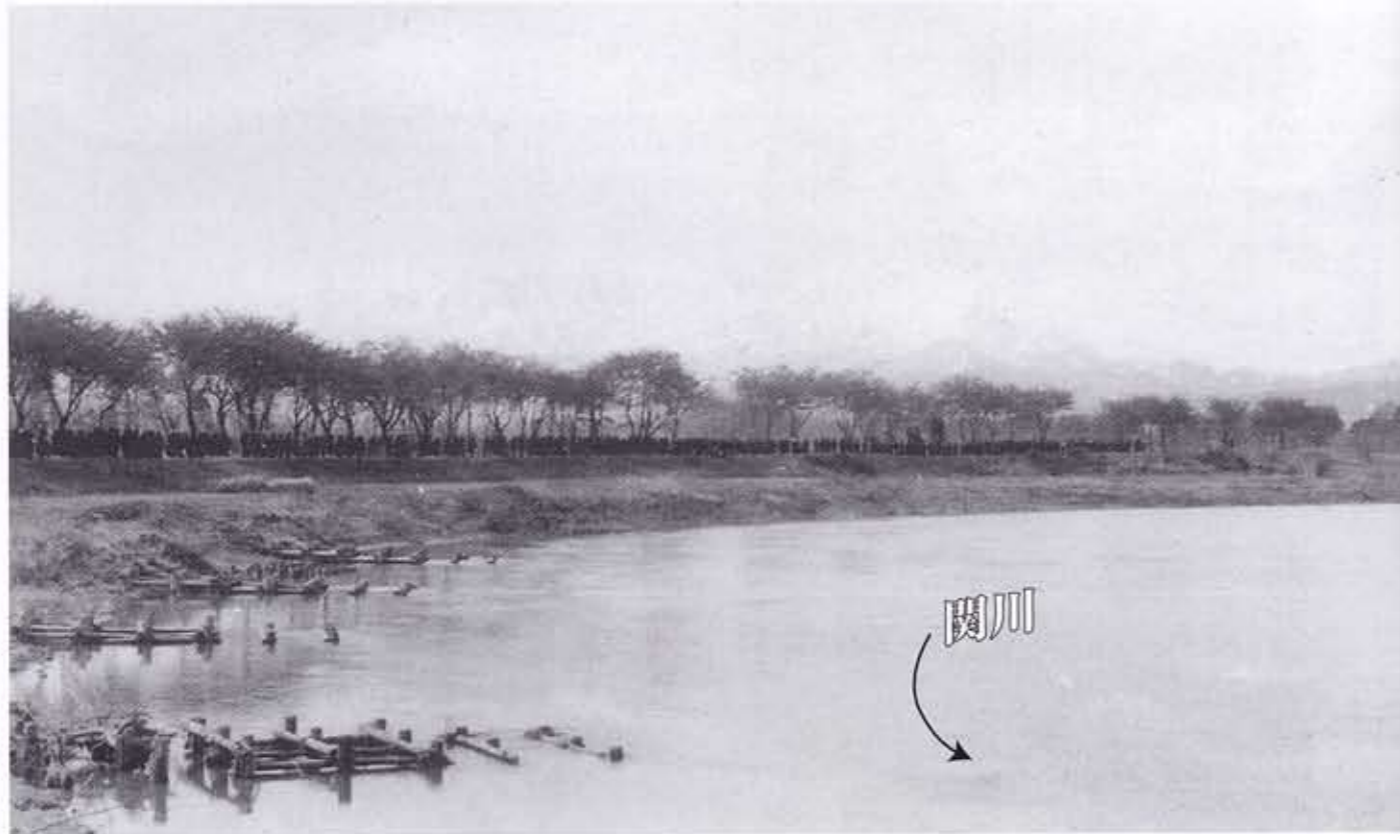
平成12年 (2000)



現在では、東雲町側の河畔にバリアフリー化された河川空間づくりの整備が行われ、周辺住民や隣接する病院利用者に憩いの場として利用されています。

# 右岸 1.6k (春日新田付近)

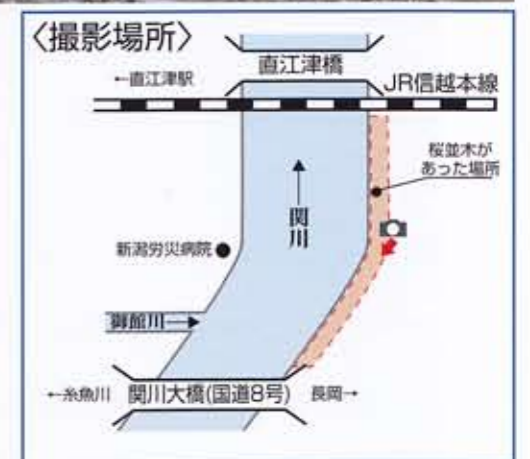
昭和32年 (1957)



関川の堤防には桜並木が続いており、花の季節にはよく遠足のコースに選ばれていたそうです。  
写真左の川岸近くに見える木でできたものは「杭出水制」と呼ばれるもので、岸にあたる水の勢いを抑え、堤防をまもるために設置されていました。

写真出展：上越市今昔写真帖（郷土出版社 刊）

平成19年 (2007)



現在、この付近は「市民の憩いの場」として利用できるよう環境整備を進めています。

## 4.4k～5.0k (木田・北田屋新田、南田屋新田)

昭和52年 (1977)



昭和57年9月洪水では、関川本川の堤防で左岸8カ所、右岸4カ所、延長1,435mにわたり溢水する甚大な被害が発生しました。このため3.6k～10.0k区間は激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業：昭和57～昭和62）として、大規模な河川改修に着手しました。

平成12年 (2000)



現在は、河川改修により、川幅が広がり、昭和62年7月には北陸自動車道が供用されました。

# 春日山橋付近 (4.6k)

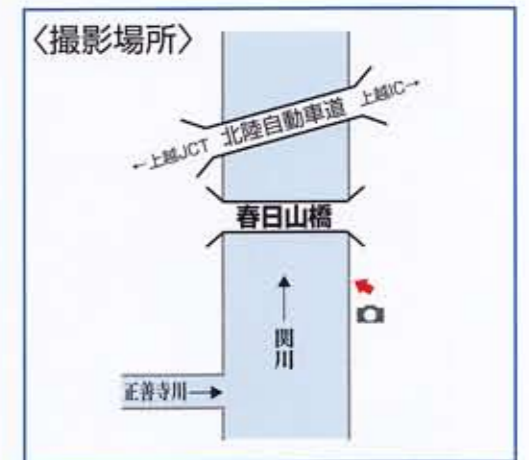
## 昭和30年 (1955)



春日山橋の近くの河川敷で畑の手入れをする小学生の様子です。

写真出展：上越市今昔写真帖（郷土出版社 刊）

## 平成19年 (2007)



現在の春日山橋は、河川改修の際に架け替えられ昭和62年(1987)に完成しました。

# 8.0k～8.8k (東本町・北城町・稲田)

## 昭和52年 (1977)



激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業）により、稲田橋付近は約100m程度だった川幅が約200mに広がりました。

## 平成12年 (2000)



現在では「水辺の楽校」として整備され、子供たちの自然学習や体験学習の場としても活用されています。

# 稲田橋付近 (8.2k)

## 大正3年頃

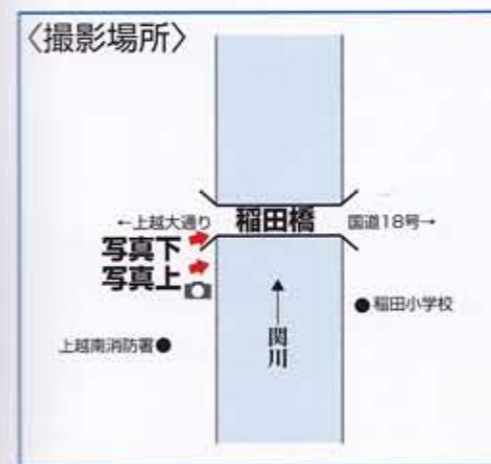


昭和30年代後半

稲田橋は、江戸時代には関川に架けられた唯一の橋でした。現在の稲田二丁目側には大きなケヤキの木がありました。

写真出展：上／上越市今昔写真帖（郷土出版社 刊）  
下／戦後50年の歩み（上越市 刊）

## 平成19年(2007)



現在の稲田橋は、河川改修の際に架け替えられ昭和62年（1987）に完成しました。



# 8.8k~9.8k (東城町・鴨島)

昭和52年 (1977)



激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業）では、高田地区で約130戸の家屋移転の他、稻田橋、中央橋等の架け替え、学校施設の移転が伴いました。

平成12年 (2000)



現在、関川左岸（東城町三丁目）に上越消流雪揚水機場が設置され、高田公園外堀（準用河川水戸の川）に関川の流水を導入し、効率的な雪処理を図っています。20年ぶりの一斉雪下ろしが行われた「平成18年豪雪」でも円滑な雪処理に効果を上げました。

# 中央橋付近 (9.2k)

## 昭和40年 (1965)



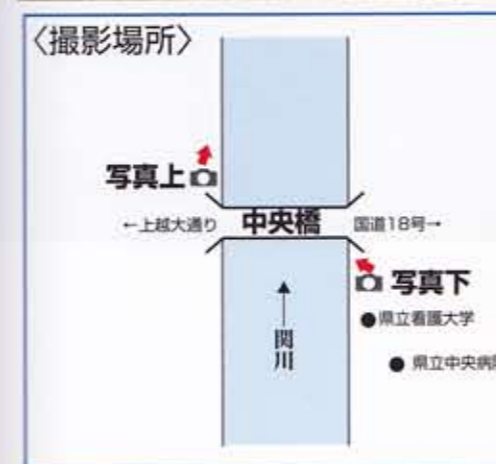
昭和29年(1954)

上の写真は、昭和40年の水害で決壊した場所の決壊前の様子です（現在の東城町3丁目付近）。この場所が決壊し、高田市街地は大きな被害がでました。

下の写真は、駅伝大会の時の中央橋の様子。当時はじゃり敷きでした。

写真出展：上／戦後50年の歩み（上越市刊）  
下／上越市今昔写真帖（郷土出版社刊）

## 平成19年 (2007)



昭和57年(1982)の水害後の河川改修で川幅が広がり、堤防も現在の形になりました。現在の中央橋は、平成11年(1999)に架けられました。

# 矢代川合流点 (9.8k)

昭和59年 (1984)



矢代川は、関川水系の中でも大きな支川の一つです。  
以前の矢代川は、関川にほぼ直角で合流しており、昭和57年9月  
水害では、堤防が決壊し東城町一帯が浸水する被害が発生しました。

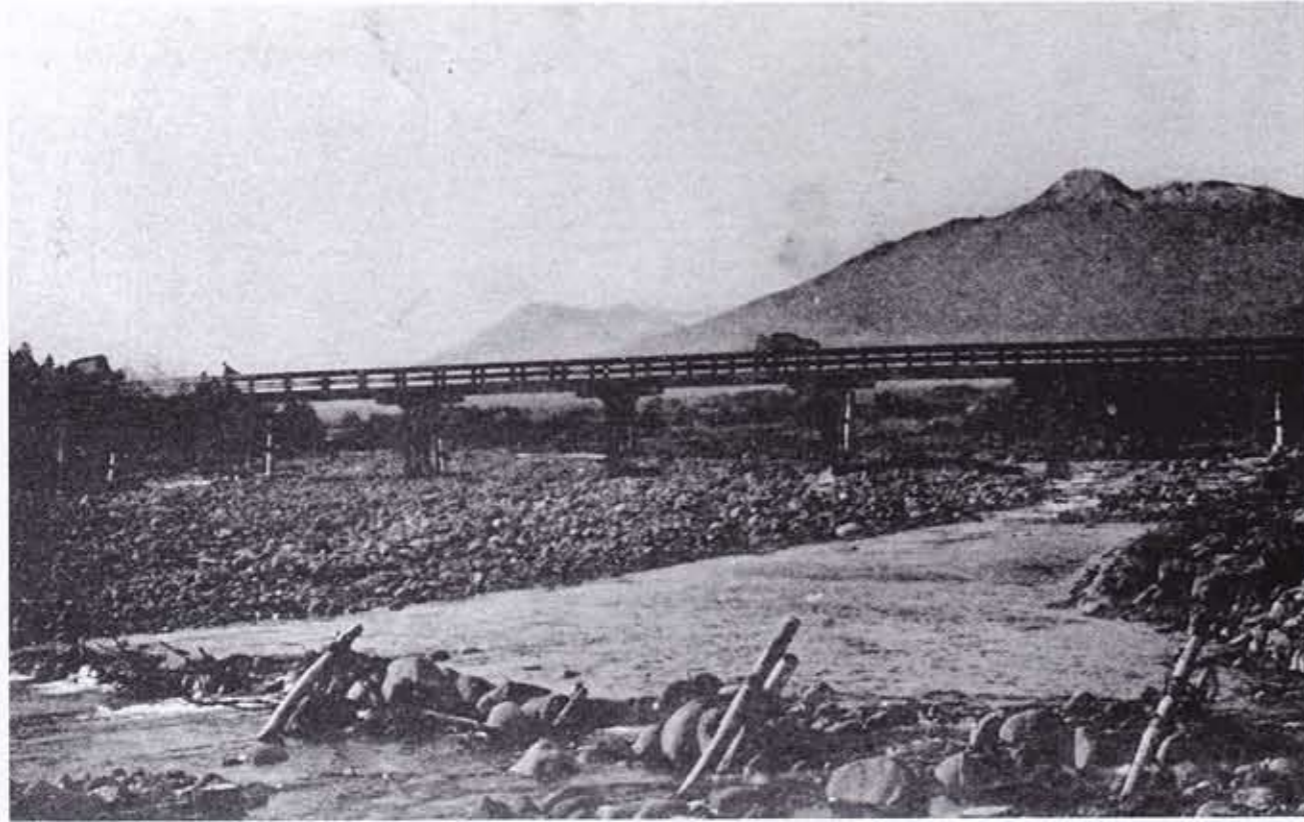
平成12年 (2000)



その復旧の際の激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業）では、  
洪水がスムーズに流下できるように合流点の付け替え工事も行いま  
した。

# 今池橋付近 (10.6k)

年代不明

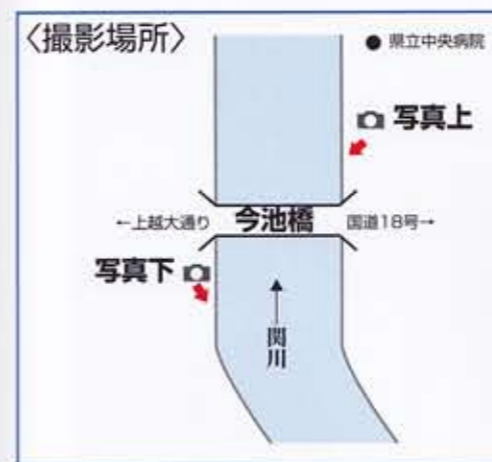


昭和46年(1971)

上の写真は、遠くに妙高山が見える今池橋の様子。下の写真は、今池橋付近での関川で遊ぶ子供たちの様子。昔はヤツメウナギが関川の名物だったそうです。

写真出展：上／ふるさとの思い出写真集（国書刊行会 刊）  
下／上越市今昔写真帖（郷土出版社 刊）

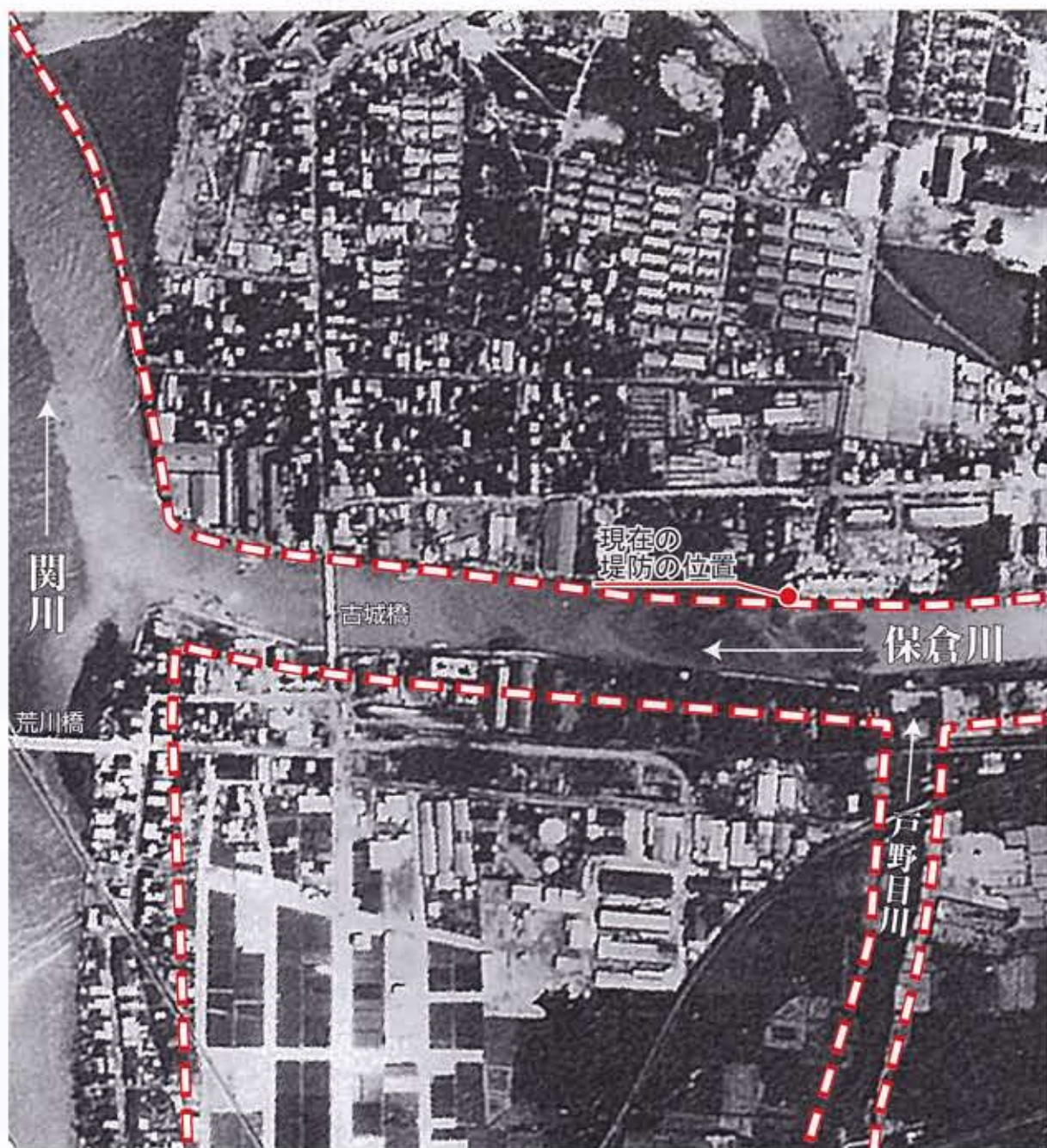
平成19年 (2007)



現在の今池橋は、河川改修の際に、従来よりもやや上流に架け替えられ平成11年（1997）に完成しました。

0.0k~0.6k (川原町・港町)

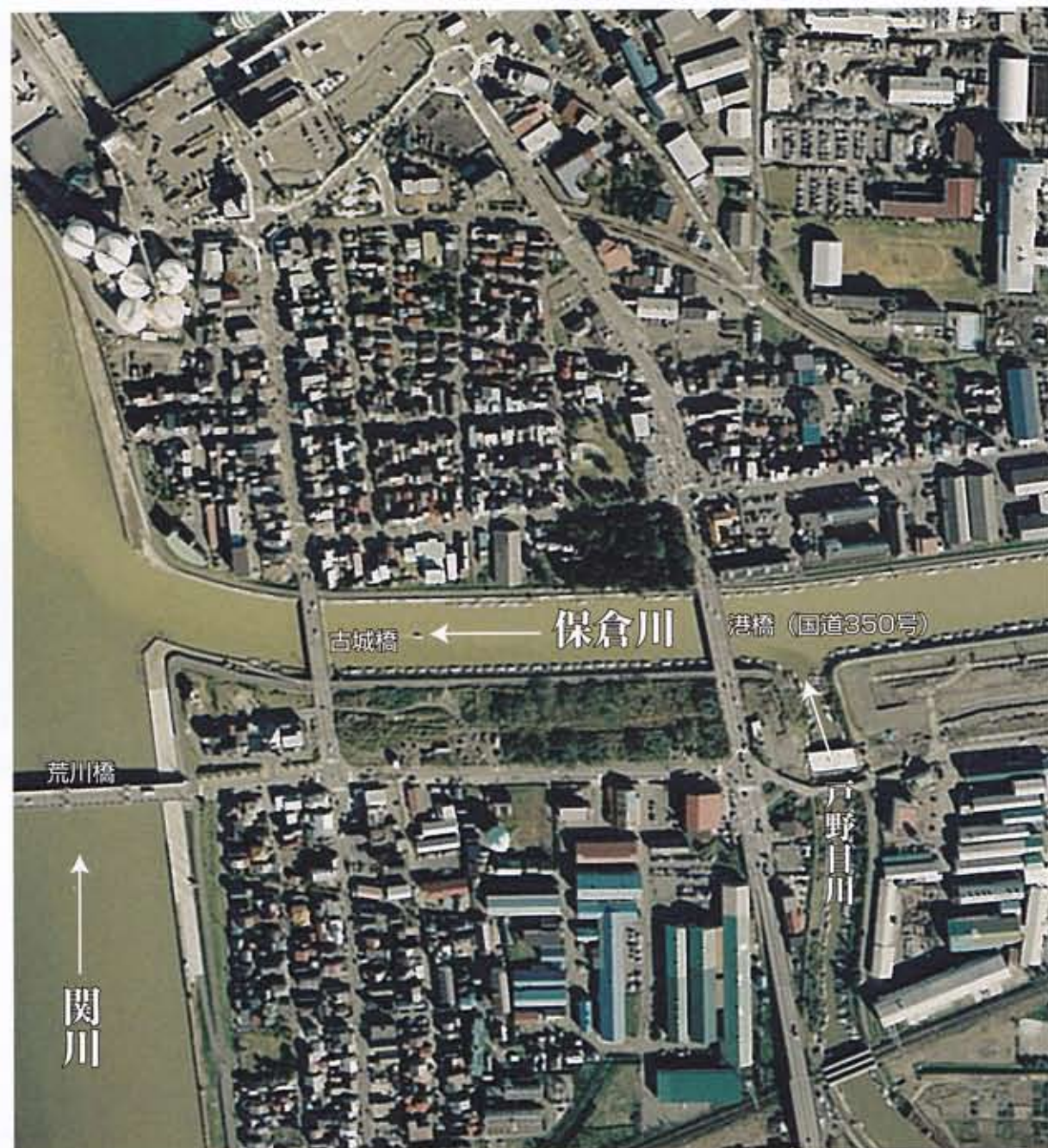
昭和36年 (1961)



日本海に直接流れ込んでいた保倉川は、江戸時代の付け替え工事により、現在の場所で関川と合流するようになりました。

写真出展：アルバム直江津（北越出版刊）

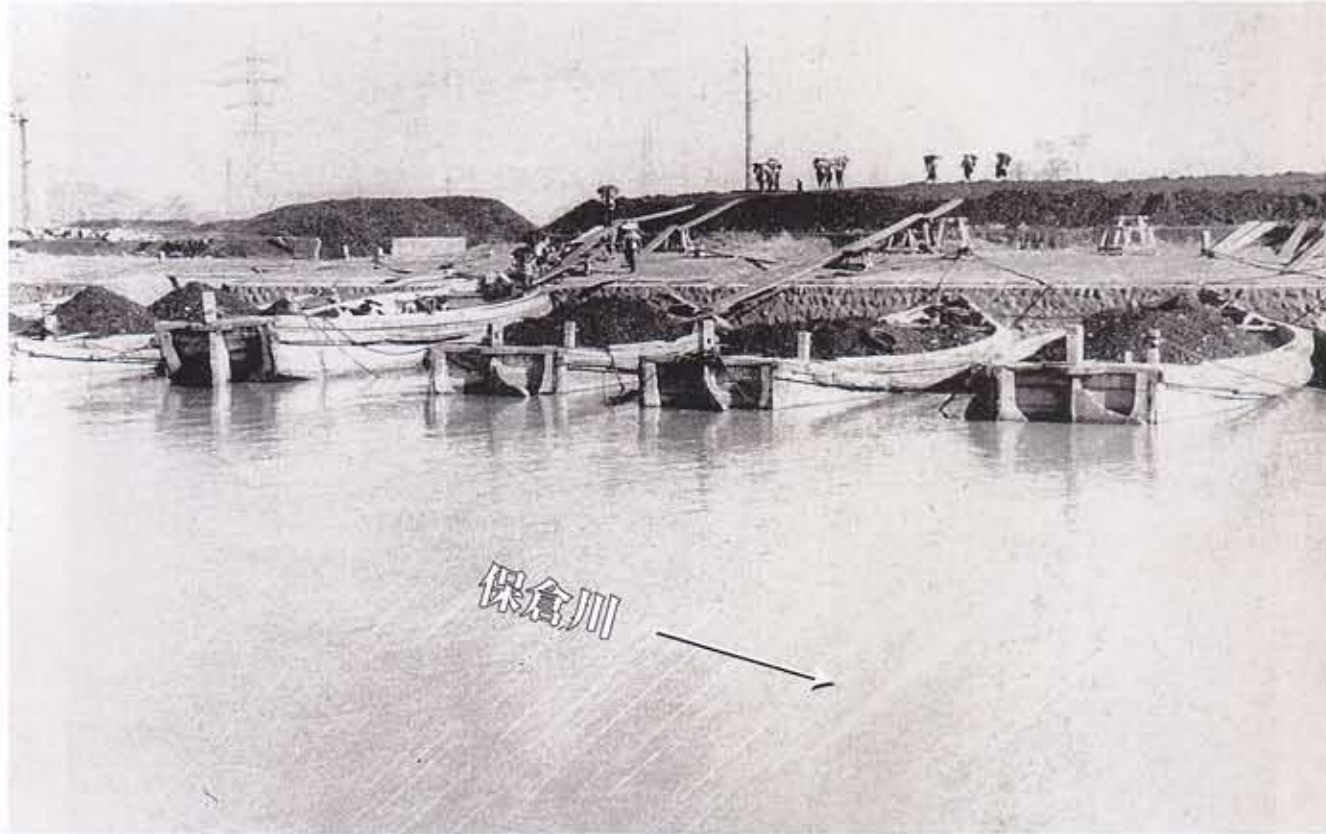
平成12年 (2000)



昭和60年7月洪水では、保倉川で左岸175m、右岸1,300mにわたって溢水し、保倉川下流部の上越市は再び甚大な浸水被害を受けたことから、激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業：昭和60～平成元年）として河川改修に着手しました。

# 春日新田付近 (左岸0.4k)

## 昭和27年 (1952)

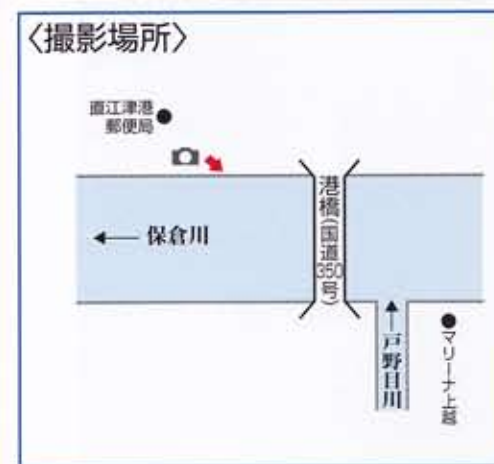


年代不明

上の写真は保倉川沿いの春日新田付近（左岸）の様子です。当時は、北海道から運ばれてきた石炭を保管していた貯炭場でした。下左の写真は炭を運ぶ女性の姿です。荷揚げは人の手によって行われていました。

写真出展：上／思い出ほろろん 上越編（新潟日報事業社 刊）  
下／戦後50年の歩み（上越市 刊）

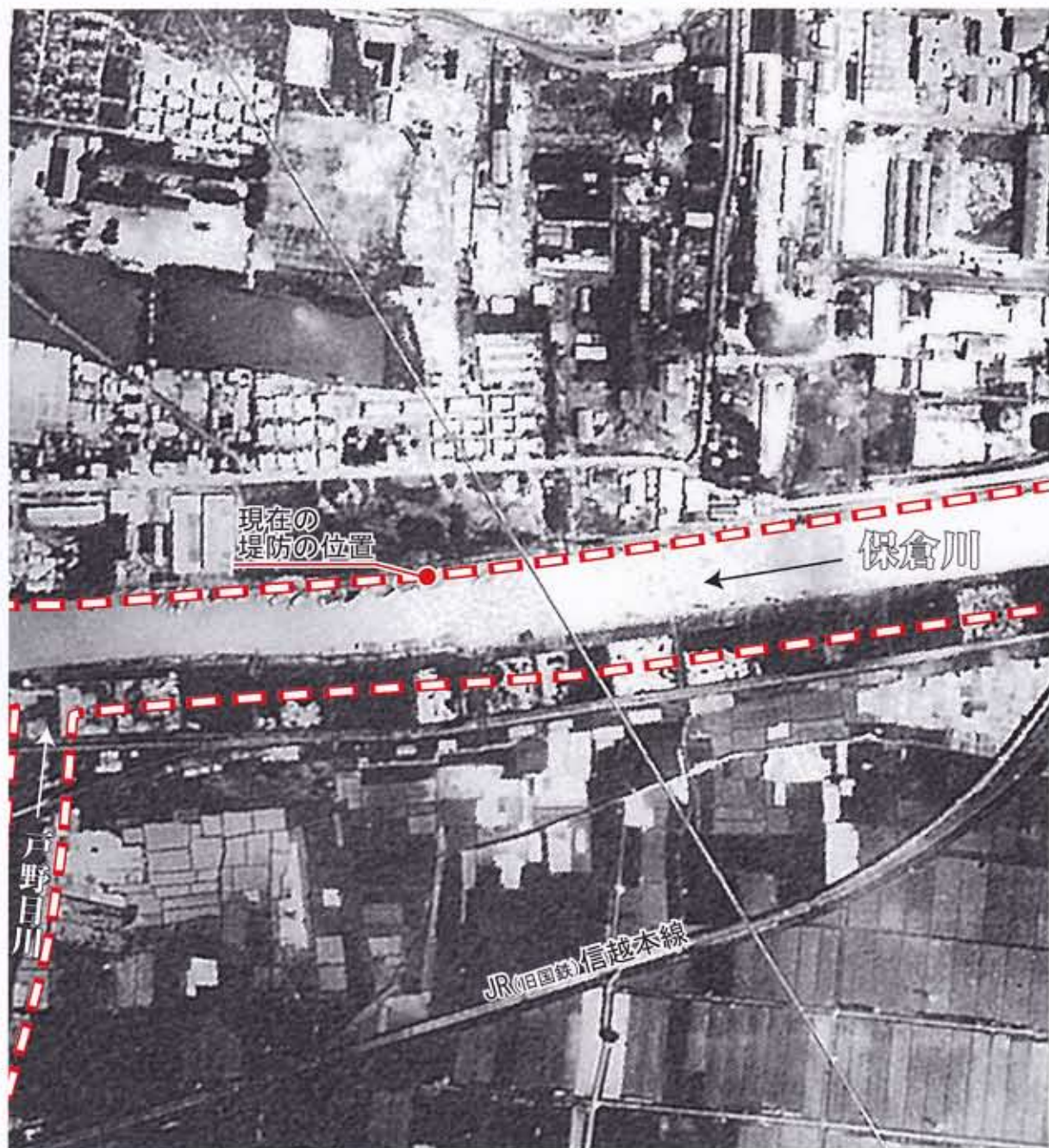
## 平成19年 (2007)



現在は、港橋（国道350号）が架けられ、上越から佐渡や北海道・九州へ向かうフェリーターミナルとして市内を結んでいます。

0.6k~1.2k (春日新田・港町)

昭和36年 (1961)



激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業）では、築堤、護岸、河道掘削等の工事を実施し、河口から1.5km付近まで約50m程度だった川幅が約70mまで広がりました。保倉川の支川戸野目川の合流点についても同様の工事を行っています。

写真出展：アルバム直江津（北越出版 刊）

平成12年 (2000)



「マリーナ上越」（平成14年開港（2002））の工事状況や保倉川に不法に係留するプレジャーボートの様子が伺えます。

# マリーナ上越 (0.6k)

## 平成13年 (2001)



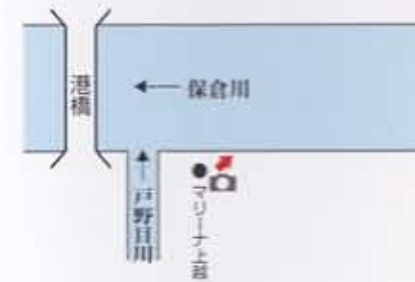
不法係留船による、洪水時の流下障害

近年、保倉川下流にはプレジャーボートなどの不法係留が目立つようになり、水害時に大きな障害となっていました。

## 平成19年 (2007)



〈撮影場所〉



平成13年度 (2001) には最大で521の不法係留船や不法係留施設がありましたが、平成14年 (2002) に「マリーナ上越」が開港し、平成17年11月には全ての不法係留が解消しました。